
第 1 章 地質調査積算基準

第1節 地質調査積算基準

1-1 適用範囲

この積算基準は、井戸調査業務に適用する。

1-2 地質調査業務費

「土木設計業務等標準積算基準書 広島県―第 2 編 地質調査業務編―第 1 章 地質調査積算基準」に準ずる。

1-3 地質調査業務の積算方法

「土木設計業務等標準積算基準書 広島県―第 2 編 地質調査業務編―第 1 章 地質調査積算基準」に準ずる。

1-4 安全費の積算

「土木設計業務等標準積算基準書 広島県―第 2 編 地質調査業務編―第 1 章 地質調査積算基準」に準ずる。

1-5 設計等における数値の扱い

「土木設計業務等標準積算基準書＜参考資料＞ 広島県―第 1 編 総則―第 1 章 総則（参考資料）―第 2 節 設計等における数値の扱い」に準ずる。

第2章 地質調査標準歩掛等

第1節 井戸調査（一般調査業務費）

1-1 井戸調査（A）【SHDA0129】

井戸調査Bの実施計画を立案するため、調査地域内の井戸の有無を戸別に聞き取り調査する。

(1戸当たり)

種 別	細 別	単 位	数 量	備 考
直接人件費	地質調査技師	人	0.05	
	主任地質調査員	人	0.1	
	地質調査員	人	0.1	
材料費	消耗品	式	1	直接人件費×3%

1-2 井戸調査（B）【SHDA0131】

井戸の分布、用途および形状など、聞き取りと水位・水質の測定などによる井戸台帳の作成。

(1箇所当たり)

種 別	細 別	単 位	数 量	備 考
直接人件費	地質調査技師	人	0.05	データ整理を含む
	主任地質調査員	人	0.2	
	地質調査員	人	0.2	
材料費	消耗品	式	1	直接人件費×3%
機械経費	触針式水位計、電気水質計、pHメーター等	式	1	直接人件費×5%

1-3 自記水位計設置（水圧式水位計）【SHDA0133】

調査対象井戸に自記水位計を設置する。

(1箇所当たり)

種 別	細 別	単 位	数 量	備 考
直接人件費	地質調査技師	人	0.5	
	地質調査員	人	1.0	
材料費	消耗品、格納箱等	式	1	直接人件費×15%

(注) 消耗品には、木杭等を含む。

1-4 自記水位計観測（水圧式水位計）【SHDA0135】

自動連続観測した観測データの取り込み及び観測機器の保守点検を行う。

(1回当たり)

種 別	細 別	単 位	数 量	備 考
直接人件費	地質調査技師	人	0.3	
	地質調査員	人	0.4	
材料費	消耗品	式	1	直接人件費×2%
機械経費	水圧式水位計等	式	1	直接人件費×10%

(注) この歩掛は、1箇所当たりとする。

1-5 自記水位計観測資料整理（水圧式水位計）【SHDA0137】

観測データのとりまとめを行う。

(1 回当たり)

種 別	細 別	単 位	数 量	備 考
直接人件費	地質調査技師	人	0.3	水位変動図の作成含む
	地質調査員	人	0.6	
材料費	消耗品	式	1	直接人件費×3%

(注) 1. この歩掛は、1 箇所当たり、1 ヶ月/1 回の資料整理を行うものであり、実施頻度に応じて、下表の補正係数を直接人件費に乗じて積算すること。

2. 補正係数式を用いる場合の係数の端数は、小数第 3 位（小数第 4 位四捨五入）まで算出する。

データ取込月数/ 実施回数	2 ヶ月/1 回	3 ヶ月/1 回	4 ヶ月/1 回	5 ヶ月/1 回	6 ヶ月/1 回	12 ヶ月/1 回
補正係数	1.70	2.60	3.40	4.40	5.70	10.00

(計算例) 井戸 1 箇所の観測を 12 ヶ月間行う場合

・1 ヶ月に 1 回資料整理の場合：12 回計上

・2 ヶ月に 1 回資料整理の場合：直接人件費の数量に 1.70 を乗じ、6 回計上

1-6 自記水位計撤去（水圧式水位計）【SHDA0139】

調査対象井戸に設置した自記水位計を撤去する。

(1 箇所当たり)

種 別	細 別	単 位	数 量	備 考
直接人件費	地質調査技師	人	0.5	
	地質調査員	人	0.5	

1-7 簡易水位観測（携帯用接触式水位計）【SHDA0141】

調査対象井戸（開放井戸）について、簡易水位計（携帯用接触式水位計相当）により水位を測定し、観測データのとりまとめを行う。

(1 回当たり)

種 別	細 別	単 位	数 量	備 考
直接人件費	地質調査技師	人	0.05	水位変動図作成を含む
	地質調査員	人	0.1	
材料費	消耗品	式	1	直接人件費×1%
機械経費	触針式水位計等	式	1	直接人件費×1%

(注) この歩掛は、1 箇所当たりとする。

1-8 揚水量試験①【SHDA0143】

主に密閉井戸を対象に、井戸に設置されているポンプを利用し、一定水量の水をくみ上げるのに要する時間を測定し、揚水量を求め、試験データのとりまとめを行う。測定は、蛇口を全開にした状態で、毎分 1 回の割合であらかじめ容量を把握した容器が満水になるまでの時間を測定する。総揚水量は、200 リットルを目安に設定する。

(1 回当たり)

種 別	細 別	単 位	数 量	備 考
直接人件費	地質調査技師	人	0.1	
	主任地質調査員	人	0.1	
	地質調査員	人	0.1	
材料費	ポリバケツ、ストップウォッチ、雑品等	式	1	直接人件費×5%

(注) 1. この歩掛は、1 箇所当たりとする。

2. 簡易水質試験を行う場合は、別途計上する。

1-9 揚水量試験②【SHDA0145】

主に密閉井戸を対象に、設定した調査時間にくみ上げられた水量を測定し揚水量を求め、試験データのとりまとめを行う。

【10 分未満】

(1 回当たり)

種 別	細 別	単 位	数 量	備 考
直接人件費	地質調査技師	人	0.02	
	主任地質調査員	人	0.1	
	地質調査員	人	0.1	
材料費	ポリバケツ、ストップウォッチ、雑品等	式	1	直接人件費×5%

(注) 1. この歩掛は、1 箇所当たりとする。
2. 簡易水質試験を行う場合は、別途計上する。

【10 分以上 20 分未満】

(1 回当たり)

種 別	細 別	単 位	数 量	備 考
直接人件費	地質調査技師	人	0.02	
	主任地質調査員	人	0.12	
	地質調査員	人	0.12	
材料費	ポリバケツ、ストップウォッチ、雑品等	式	1	直接人件費×5%

(注) 1. この歩掛は、1 箇所当たりとする。
2. 簡易水質試験を行う場合は、別途計上する。

【20 分以上 30 分以下】

(1 回当たり)

種 別	細 別	単 位	数 量	備 考
直接人件費	地質調査技師	人	0.02	
	主任地質調査員	人	0.14	
	地質調査員	人	0.14	
材料費	ポリバケツ、ストップウォッチ、雑品等	式	1	直接人件費×5%

(注) 1. この歩掛は、1 箇所当たりとする。
2. 簡易水質試験を行う場合は、別途計上する。

1-10 流量観測（容器法）【SHDA0147】

沢水などの流水を容器にとり、単位時間当りの流量を観測し、観測データのとりまとめを行う。

(1 回当たり)

種 別	細 別	単 位	数 量	備 考
直接人件費	主任地質調査員	人	0.1	
	地質調査員	人	0.1	
材料費	バケツ、メスシリンダー、消耗品、雑品等	式	1	直接人件費×5%

(注) この歩掛は、1 箇所当たりとする。

1-11 流量観測（断面法）【SHDA0149】

河川（水路等も含む）の流速を流速計により測定し、河川断面積と流速の測定結果から、流量を算出し、データのとりまとめを行う。

（1回当たり）

種 別	細 別	単位	数 量			備 考
			計測幅（断面幅）m			
			～2 未満	2～5 未満	5～20 未満	
直接人件費	主任地質調査員	人	0.2	0.3	0.4	統括・記帳・安全確認
	地質調査員	人	0.2	0.6	1.2	流速測定・水深測定・側線保持
材料費	消耗品	式	1	1	1	直接人件費×5%
機械経費	流速計等	式	1	1	1	直接人件費×7%

（注）この歩掛は、1断面当たりとする。

1-12 流量観測（三角堰法）装置設置【SHDA0151】

観測を行うための三角堰の設置を行う。

【設置幅：1m未満】

（1箇所当たり）

種 別	細 別	単 位	数 量	備 考
直接人件費	主任地質調査員	人	1.0	
	地質調査員	人	3.0	
材料費	鋼板製三角堰、設置木杵、固定用木杭、土のう袋、ガソリン、雑品等	式	1	直接人件費×15%
機械経費	発電機、水中ポンプ等	式	1	直接人件費×10%

【設置幅：1m以上2m程度】

（1箇所当たり）

種 別	細 別	単 位	数 量	備 考
直接人件費	主任地質調査員	人	1.2	
	地質調査員	人	4.0	
材料費	鋼板製三角堰、設置木杵、固定用木杭、土のう袋、ガソリン、雑品等	式	1	直接人件費×15%
機械経費	発電機、水中ポンプ等	式	1	直接人件費×10%

1-1 流量観測（三角堰法）【SHDA0153】

水路などの流水の流量を三角堰により観測し、観測データのとりまとめを行う。

（1回当たり）

種 別	細 別	単 位	数 量	備 考
直接人件費	主任地質調査員	人	0.1	
	地質調査員	人	0.1	
材料費	消耗品	式	1	直接人件費×3%

（注）1. この歩掛は、1箇所当たりとする。

2. 簡易水質試験を行う場合は、別途計上する。

1-2 流量観測（三角堰法）装置撤去【SHDA0155】

三角堰の撤去を行う。

【設置幅：1 m未満】

(1箇所当り)

種 別	細 別	単 位	数 量	備 考
直接人件費	主任地質調査員	人	1.0	
	地質調査員	人	1.5	
材料費	ガソリン、雑品等	式	1	直接人件費×15%
機械経費	発電機、水中ポンプ等	式	1	直接人件費×5%

【設置幅：1 m以上2 m程度】

(1箇所当り)

種 別	細 別	単 位	数 量	備 考
直接人件費	主任地質調査員	人	1.0	
	地質調査員	人	2.5	
材料費	ガソリン、雑品等	式	1	直接人件費×15%
機械経費	発電機、水中ポンプ等	式	1	直接人件費×5%

1-1 簡易水質試験【SHDA0157】

現地で携帯型の水質計等を使用し、簡易水質試験を実施し、試験データのとりまとめを行う。

【測定項目（3項目）：水温、水素イオン濃度（pH）、電気伝導率】

(1回当り)

種 別	細 別	単 位	数 量	備 考
直接人件費	主任地質調査員	人	0.05	
	地質調査員	人	0.05	
機械経費	電気水質計、pHメーター等	式	1	直接人件費×10%

(注) この歩掛は、1箇所当りとする。

【測定項目（4項目）：水温、水素イオン濃度（pH）、電気伝導率、濁度】

(1回当り)

種 別	細 別	単 位	数 量	備 考
直接人件費	主任地質調査員	人	0.05	
	地質調査員	人	0.05	
機械経費	電気水質計、pHメーター、濁度計等	式	1	直接人件費×10%

(注) この歩掛は、1箇所当りとする。

1-2 水質分析用試料採水【SHDA0159】

水質分析用の井戸水を採水し、冷暗状態を保ちながら分析室へ搬入する。

(1回当り)

種 別	細 別	単 位	数 量	備 考
直接人件費	主任地質調査員	人	0.1	
	地質調査員	人	0.1	
材料費	消耗品	式	1	直接人件費×3%

(注) 1. この歩掛は、1箇所当りとする。
2. 簡易水質試験を行う場合は、別途計上する。

1-3 降水量調査【SHDA0161】

気象庁、管区気象台などにより過去 10 年分の気象資料を収集し整理を行う。

(1 業務当り)

種 別	細 別	単 位	数 量	備 考
直接人件費	地質調査員	人	1.5	日降水量、月気温の入力
		人	0.2	月降水量図の作成
		人	0.2	年降水量図の作成
		人	0.2	月気温図の作成
		人	0.5	蒸発散量図の作成
		人	0.2	有効雨量図の作成
		人	1.5	降水の特性把握
材料費	消耗品	式	1	直接人件費×5%

第2節 井戸調査（解析等調査業務費）

1-1 打合せ協議

「土木設計業務等標準積算基準書 広島県―第2編 地質調査業務編―第1章 地質調査積算基準」に準ずる。

1-2 計画準備（A）路線構造物【SHDA0163】

業務の実施に先立ち、実施計画等を検討・作成する。

（1 業務当り）

種 別	細 別	単 位	数 量	備 考
直接人件費	主任技師	人	5.0	
	技師 A	人	5.0	
	技師 C	人	4.0	

- （注） 1. 上記歩掛は、路線長 10 km 以上につき一定としている。
 2. 路線長に応じて、下表の補正係数を直接人件費に乗じて積算すること。

路線長 L	2 km 未満	2 km 以上	3 km 以上	4 km 以上	5 km 以上	6 km 以上	7 km 以上	8 km 以上	9 km 以上	10 km 以上
補正係数 K	0.30	0.38	0.45	0.53	0.61	0.69	0.77	0.84	0.92	1.00

1-3 計画準備（B）路線構造物以外【SHDA0165】

業務の実施に先立ち、実施計画等を検討・作成する。

（1 業務当り）

種 別	細 別	単 位	数 量	備 考
直接人件費	主任技師	人	5.0	
	技師 A	人	5.0	
	技師 C	人	4.0	

- （注） 1. 上記歩掛は、調査地区数 5 箇所以上につき一定としている。
 2. 調査地区数に応じて、下表の補正係数を直接人件費に乗じて積算すること。
 3. 補正係数式を用いる場合の係数の端数は、小数第 3 位（小数第 4 位四捨五入）まで算出する。

調査地区数 P	1 箇所	2 箇所	3 箇所	4 箇所	5 箇所
補正係数 K	0.50	0.63	0.75	0.88	1.00

1-4 現地踏査（A）路線構造物【SHDA0167】

調査計画のための現地調査と資料検討を行う。

（1 業務当り）

種 別	細 別	単 位	数 量	備 考
直接人件費	主任技師	人	2.0	
	技師 A	人	2.0	

- （注） 1. 上記歩掛は、路線長 1 km 以下を基準とする。
 2. 路線長に応じて、下表の補正係数を直接人件費に乗じて積算すること。
 3. 路線長が 5 km を超える場合は、補正係数式を用い補正係数を算出すること。
 4. 補正係数式を用いる場合の係数の端数は、小数第 3 位（小数第 4 位四捨五入）まで算出する。

路線長 L	1 km 以下	2 km 以下	3 km 以下	4 km 以下	5 km 以下	補正係数式
補正係数 K	1.00	1.30	1.48	1.60	1.70	$K=1.0+\text{Log}L$

1-5 現地踏査 (B) 路線構造物以外【SHDA0169】

調査計画のための現地調査と資料検討を行う。

(1 業務当り)

種 別	細 別	単 位	数 量	備 考
直接人件費	主任技師	人	2.0	
	技師 A	人	2.0	

- (注) 1. 上記歩掛は、調査地区数 1 箇所を基準とする。
 2. 調査地区数に応じて、下表の補正係数を直接人件費に乗じて積算すること。
 3. 調査地区数が 6 箇所以上の場合は、補正係数式を用い補正係数を算出すること。
 4. 補正係数式を用いる場合の係数の端数は、小数第 3 位 (小数第 4 位四捨五入) まで算出する。

調査地区数 P	1 箇所	2 箇所	3 箇所	4 箇所	5 箇所	補正係数式
補正係数 K	1.00	1.30	1.48	1.60	1.70	$K=1.0+\text{Log}P$

1-6 観測データ解析費【SHDA0171】

観測データと降水量の関係から、各々の特性を明らかにするとともに、調査場所・観測頻度などを含め、今後の調査計画立案のための資料を作成する。

(1 箇所当り)

種 別	細 別	単 位	数 量	備 考
直接人件費	技師 B	人	0.3	
直接経費	解析消耗品費	式	1	直接人件費×1.5%

- (注) 上記歩掛は、井戸調査 5 箇所分の解析を行うことを標準としている。

1-7 報告書作成 (A) 路線構造物【SHDA0173】

調査結果の考察・検討及び今後の調査計画立案をとりまとめる。

(1 業務当り)

種 別	細 別	単 位	数 量	備 考
直接人件費	技師長	人	1.5	
	主任技師	人	2.0	
	技師 A	人	4.0	

- (注) 1. 上記歩掛は、路線長 1 km 以下を基準としている。
 2. 路線長に応じて、下表の補正係数を直接人件費に乗じて積算すること。
 3. 路線長が 5 km を超える場合は、補正係数式を用い補正係数を算出すること。
 4. 補正係数式を用いる場合の係数の端数は、小数第 3 位 (小数第 4 位四捨五入) まで算出する。

路線長 L	1 km 以下	2 km 以下	3 km 以下	4 km 以下	5 km 以下	補正係数式
補正係数 K	1.00	1.30	1.48	1.60	1.70	$K=1.0+\text{Log}L$

1-8 報告書作成 (B) 路線構造物以外【SHDA0175】

調査結果の考察・検討及び今後の調査計画立案をとりまとめる。

(1 業務当り)

種 別	細 別	単 位	数 量	備 考
直接人件費	技師長	人	1.5	
	主任技師	人	2.0	
	技師 A	人	4.0	

- (注) 1. 上記歩掛は、調査地区数 1 箇所を基準としている。
 2. 調査地区数に応じて、下表の補正係数を直接人件費に乗じて積算すること。
 3. 調査地区数が 6 箇所以上の場合は、補正係数式を用い補正係数を算出すること。
 4. 補正係数式を用いる場合の係数の端数は、小数第 3 位 (小数第 4 位四捨五入) まで算出する。

調査地区数 P	1 箇所	2 箇所	3 箇所	4 箇所	5 箇所	補正係数式
補正係数 K	1.00	1.30	1.48	1.60	1.70	$K=1.0+\text{Log}P$